

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101213		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里小江原 (風だより)		
所在地	長崎県長崎市小江原1丁目35番13号		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果確定日	平成29年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念に基づき、毎日がその人らしく、安心で、楽しく生活できるよう支援しています。また、季節感を感じて頂けるよう、行事の企画、外食、散歩、お買い物、ドライブ等のサービスの提供を実施、ご入居者の笑顔が絶えないように支援しております。また、清潔保持や居室の清掃もこまめに行い、安全・快適を目指しています。また、24時間365日、医療との連携も確立しております。自立支援、ノーマライゼーションの支援を積極的に行い、その人らしい暮らしをして頂けるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな人間性・安らぎの提供・能力の研鑽・真摯な態度といった法人の理念のもと、「ご入居者は人生の大先輩です。」というグループホームの理念をうたい日々の支援にあたっている。1年前に開所した新築の施設である。2ユニットあり、ホールが開放され自由で広々とした共有空間となっている。赤外線センサーやモニターで不安感や束縛感を与えることなく安全の確保を行っている。接遇マニュアルや虐待防止委員会で敬う心を培い、ハード面においても今までの職員の介護のノウハウにて、センサーの水道蛇口・自動アシスト歩行器・オール電化による節電と浴室乾燥等、利用者のためだけでなく職員も働きやすい環境となっている。医療法人を母体とし医療との連携も図られ、緊急時や看取り・認知症対応に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットに掲示し、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。	理念は同法人の既存のグループホーム開設時に職員意見のもとBS法で作成し、当事業所の開所時に共有することとし勉強会を行なっている。理念をもとに職員皆で援助方針を作り、日々の支援にあたっている。職員は入職時に接遇マニュアルで教育を受けている。毎月行われるユニットミーティングでも研修を行ない、人権と尊厳を守り、穏やかで安心できる暮らし作りに務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・勉強会等、積極的に参加し、交流を少し増やしています。また、GH行事では夏祭りや敬老会、消防訓練など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。	自治会に加入しており、自治会祭りや地域包括支援センター主催の行事や研修にも参加している。グループホーム主催の行事にも地域の方々に参加を呼びかけている。利用者も地域の方が多く、顔見知りの方の行事参加を楽しみとしている。職員の活動として、地域の清掃活動へも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、認知症サポーターの研修の受け入れ等を将来的に行う予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことにより、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。	運営推進会議には自治会・民生委員・地域包括支援センター・市介護保険課・利用者代表・家族代表が出席し、利用状況・活動報告・前回の事案等について検討を行っている。アクシデント報告や総合防災・虐待防止・身体拘束の各委員会からの報告からは、安心して安全な生活を守る姿勢が伺える。避難訓練の後に会議を開催し、家族に避難訓練を見てもらっている。小江原通信や会議録を玄関に置き閲覧可能としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会(民生委員)と情報交換、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。	地域包括支援センターと密に連携を図り、研修会や地域サロンへの参加等の協力を行なっている。運営推進会議には市の介護保険課やすこやか支援課が参加し、案件に対する意見やアドバイスを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。	赤外線センサーやモニターを用い、玄関やエレベーターも施錠をしていない。職員の見守りの中、利用者に不安感や束縛感を与えずに、安全の確保を行っている。身体拘束に関しては、ユニットミーティングや虐待防止委員会で定期的に研修を行なっている。職員の相談箱を設置し、介護のグレーゾーン等も皆で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書の説明を行っており、その都度疑問や質問に対応し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。変更時は、同意書に署名して頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしている他に、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族には「GH小江原通信」を配布しております。	入居者は地元の方が多く特に土曜日曜は、家族の面会が多い。つど意見や要望を傾聴している。運営推進会議や行事への参加も協力的で、利用者・事業所・家族との連携が図られている。エレベーター前にご意見箱も設置している。居室も利用者の馴染みの物を置き、ご家族で居心地がいいように作ってくださいと伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング、定期、または必要時に面談等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。	職員の相談箱や年2回行う個人面談にて、職員個々の意見を取り入れている。夕食を委託にし、利用者の夕方の入浴を可能にしたという事例もある。オール電化の深夜電力での節約や、職員の今までのノウハウを結集し、ソフト面だけではなくハード面においてもより良い環境作りを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持ちやりがいをもって働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、事業所の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育を実施し、内部・外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人の生活歴などの情報を集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行ない、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ、食器拭きや掃除機掛けなどを自然な形で無理が無いように、その日の体調を職員が確認しながら一緒に行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ行事の参加をお願いしたり、GH小江原通信で本人の様子をお伝えしています。又、面会に来られた時はお互いに情報交換しながらより良い支援が出来るように協力関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。	入所時にアセスメントを行い生活歴やフェースシートで入居者の馴染みの物や事を把握し、生活習慣を捉えるように努めている。入居者には近隣の地元の方が多く、ご近所の方の来訪が多数ある。盆・正月の帰省や会食・理美容・墓参り等家族の協力や対応が多々ある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置に気を配り、おやつ時間、体操、レクリエーション等ご入居者同士が気軽に集まって関わりあえるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人からお話を聞いたりして、これまでの生活歴を大切にケアプランの検討を行なっています。	入所時に家族に輝いていた時期や生活歴を書いてきてもらっている。塗り絵が好きな方は以前から使っていたものを持ってきている。日々の生活の中で感じた思いを言われたときは職員が共通するノートに書き留め共有した支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの聞き取りや前担当ケアマネージャー等から話を聞くなどして、これまでのサービス利用や生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、情報を共有する事はもちろん、ミーティングでも一人一人の状態について話し合い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は家族・本人の意見を伺い出来るだけ意向に添うように作成しています。又、ミーティング時や日頃の業務の中でも検討を行なっています。	日頃の状況から思いや意向をくみ取り介護計画に活かしている。支援内容は職員や家族にも反映させ、共通した支援と新たな気づきにつながるように現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているか、チェック表を作成し、毎日記入しています。統一したケアが出来るとよに業務日誌の申し送り欄にて情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関に関して受診や相談、ケアプランの見直し等柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合もヘルパーや介護タクシーの紹介等をさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域の行事等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。	入所時に以前のかかりつけ医から情報を頂き適切な医療の継続が行われている。家族対応で受診が行われた場合は職員が内容を聞き取り情報を共有して支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。	看取りのマニュアルが写真付きで作成されており、介護職であっても解りやすく支援ができるようになっている。看護師が中心となり施設内外部との連携があり日常や看取り時の支援体制が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。また、死亡時のマニュアルも整っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。	近隣に住む法人内の職員が災害時の支援者として駆けつける体制がある。(連絡網整備)入所者の情報を一つにまとめたファイルがあり緊急時持ち出せるようにしている。ハザードマップで近隣の状況を知り、あらゆる災害に備えている。食料を3日程度備蓄し、水もタンクを整備している。	消防計画書は作成しているが地震や水害などが含まれていなかった。あらゆる災害を想定して計画書を作成し地震や水害などにも備えるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重する為、職員が自分振り返りの勉強会に参加したり、丁寧な言葉遣いを徹底しています。又、申し送りなど、ご入居者に関わることはご入居者の居ない場所で行なっています。	職員が自己評価を行い接遇に関しても研修を積み重ね法人全体で取り組んでいる。申し送りを入居者の前で言うときは部屋番号で伝えたり、本人にわからないように工夫をし支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や行動を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や外出の際は好みの服などの声掛けをします。整容には心掛け、カットサービスを提供しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にお好きな物を取り入れるようにし、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。また地域特産の式見蒲鉾もご利用者と買いに出かけます。	日ごろから食べたい物を聞き取り、ステーキなども提供している。行事食にはオードブルや鍋料理も取り入れ皆が囲んで同じ物を食べたりしている。食器も陶器の物を用い見た目も華やかにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも使用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。	入居者の排泄力を個別で把握し、一人ひとりの支援を行っている。今後は日中の排泄状態の対応をさらに工夫し職員が連携しながら自立した排せつにつながるよう目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。	夕方の調理体制を工夫し、入居者の希望である夕方に入浴ができるようになった。1番風呂を希望される方もおり一人ひとりに合わせた入浴が楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が自由に休める様な形を取っています。疲労感が見られる時やその方の生活習慣に応じて休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情報書をいつでも見られるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、服薬時のダブルチェックも実施しており誤薬事故のないよう取り組みをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。ユニット間も行き来がありコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブに出掛けたり、庭に出て休憩をしています。又、ご家族に依頼してお墓参りや自宅へお連れして頂いています。	車いすが2台乗車できる車を1台備えてある。普段から近隣の公園に出かけている。夕方の不穏な状態の方もドライブをし気分転換を促すなど入所者の状況に合わせた外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金、財布を所持している方も居られます。散歩や外出時に持参しお金を使う機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が好きな時、かけたい時に掛けられるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、お花を飾ったりご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。玄関には行事の写真展示をします。	二つのユニットの間は普段引き戸で仕切つてあるが開閉すると一つのフロアになり入居者すべての人が見渡せ、行事なども交流時も広い空間で行われている。対面式の台所で調理をしながらでも入居者の様子が把握でき、入所者も安心して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話ができるようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼して写真を持って来て頂いたり、馴染みの小物や家具をもって来て頂き、ご本人が安心して生活できる空間を作れるように工夫しています。	入所される前に使っていた家具やなじみの物を並べ 過ごされてきた人生が変わりなく過ごせる環境づくりをしている。空調も温度や湿度に気配りをしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		